

SSS2012 論文作成ガイド

西田 知博†, 竹村 治雄‡

概要

本稿は、情報教育シンポジウム SSS2012 に投稿する論文および、採録が決定した後のカメラレディ原稿を作成するためのガイド並びにサンプルである。

How to Typeset Your Papers for SSS2012

Tomohiro Nishida†, Haruo Takemura‡

Abstract

This document is a guide to produce a draft to be submitted to SSS2012 and the final camera-ready manuscript of a paper to appear in SSS2012 proceedings.

1 はじめに

本稿は、SSS2012 へ投稿する論文を作成するためのサンプルです。文章は、大会趣旨と発表募集要項をベースとしていますので、投稿ガイドとしてお読みいただき、論文作成の参考にしてください。

論文の形式は印刷した予稿集での読みやすさを考慮し、A4 縦 2 段組のスタイルといたしました。現在、情報処理学会の研究報告原稿で採用されているスタイル [1] とは異なりますのでご注意ください。

本稿は L^AT_EX で書かれておりますので、そのソースもご参照ください。MS-Word で論文を書かれる方は、PDF のサンプルファイルの様式を参考にし、原稿の作成をお願いします。参考として、情報処理学会への投稿論文の旧スタイルファイルベースとしたサンプルを Web ページ上に掲載いたしますが、予稿集は B5 版に縮小されることをご考慮いただき、可能であれば本文のフォントを大きめにさせていただきますよう、お願いいたします。

2 大会趣旨

2011 年 3 月 11 日の大震災は甚大な被害をもたらしたばかりでなく、私たちに様々な「見直し」と「修正」を迫って参りました。とりわけ科学技術を取り巻く知識と情報について、その信頼が根底から揺さぶられてしまいました。この大震災は私たちが推し

進めてきた情報教育の技術的側面にもその内容や有効性にとっても厳しい試練を与えました。

「情報教育」を取り巻く環境も社会全体における「ICT」フィーバーの沈静化とともに、事改めて意識されることの少ない生活の基盤の一つとして冷静に情報技術を見直す時期になってきました。しかし、情報技術が社会の基盤をなす要素として揺るぎない地位を固めつつある一方で、依然として情報教育の制度的な位置づけには課題が山積みされており、そのことがこれからの社会を担うべき若者たちにとって情報技術の学習の障害になっている恐れがあります。そのような困難な情勢の中にあっても私たちはそれらの課題を解決すべく、多方面からの研究と研鑽を積んで行くことが求められています。

コンピュータと教育研究会は 1999 年から宿泊形式の情報教育シンポジウムを毎年開催し、2010 年からは教育学習支援情報システム研究会と共同で開催しています。情報教育、教育の情報化に関わる幅広い分野の教育者や専門家の参加を募って、実り多い議論を実現し、多くの課題解決への熱い情熱をかき立てる場となることを期待したいと思います。

3 論文投稿者、著者

共著の場合の投稿者は、第 1 著者で、且つ発表者であることが望まれます。但し、第 1 著者としての投稿は 1 人 1 本に限るものとし、1 人で 2 件以上の発表することはできません。

4 論文投稿形式

投稿カテゴリーは 3 通り (提案論文, 実践報告, デモンストレーション/ポスター発表) あります (表 1).

† 大阪学院大学
Osaka Gakuin University
‡ 大阪大学
Osaka University

的確な査読結果を得るために、概要ではなく、完全な原稿による査読を行います。原稿では、図表等を用い、査読者に発表内容が十分に伝わるよう配慮をお願い致します。投稿者は論文をつけてプログラム委員会に申し込んで下さい。

4.1 執筆要領

- A4 縦、2 段組の書式とします
- 上下左右の余白は 1 インチ (25.4mm) 以上としてください
- できる限り英文のタイトル、abstract も付けて下さい
- 投稿論文には著者名、所属は書かないでください
- ページ番号は付けしないでください

5 論文のテーマ

発表原稿に対して適切な判断ができるようにするために、投稿者が下のリストから最も関連が深いと思われるテーマ(または、最も主張したいテーマ)を 1 つ選択して下さい。但し、選択されたテーマ以外にも関連すると思われるテーマがある場合には、その旨を別途、明記して下さい(複数選択可)。テーマの選定は、査読・適切性の審査を円滑に行なうためのものでありますから、慎重に御検討下さい。学術的な研究論文のみならず、実践報告・教育評価・新しい提案などの論文も歓迎します。

1. 情報教育
2. 教育学習過程の情報化
3. 教育学習支援環境
4. その他

なお、テーマの選択にあたっては、以下のキーワードリストをご参考ください。

- 情報教育
小学校・中学校における情報教育、高校情報科、大学・高専以降の情報教育、情報処理教育、メディアリテラシー教育、コンピュータスキル教育、情報セキュリティ教育、情報倫理教育、情報モラル教育、学習者評価(テスト問題、入試)
- 教育学習過程の情報化
教室・教具の情報化、学習支援環境の情報化、評価作業の情報化、教材作成・流通法、授業とその評価、授業デザイン、ラーニングデザイン、学習行動分析、学習効果測定法、ネットワーク上のコミュニケーションツール(blog, BBS, Wiki など)の活用

- 教育学習支援環境
教育学習支援環境(コース管理システム、eポートフォリオ、教務システム等)の開発、構築・導入・運用に関する事例研究、教育現場での運用・普及・利用支援、標準化、大学間連合や地域等でのシステム活用、協調学習、ソーシャルラーニング、学習コミュニティ、オープンアーキテクチャ、オープンエデュケーション
- その他
ビジネスモデル、産学連携、学校運営の情報化、政策提言、情報関連能力に関する資格制度、情報英才教育、障害者に対する情報教育、諸外国の事例紹介、その他

6 投稿にあたっての注意事項

投稿カテゴリーと投稿形式に注意して論文概要を作成して下さい。なお、「提案論文」「実践報告」に投稿する場合は、査読の公正さを保つために、著者・所属・住所・連絡先等を原稿に含めないようにし、さらに、概要や本文から、著者の学校名・組織名・会社名・人名が容易に推察されないよう工夫をして下さい。

採録確定後の原稿には、具体的な名称も挿入できません。「デモンストレーション」に投稿する場合は、具体的な名称を含んでも構いません。

なお、投稿の際には、「**セキュリティをかけない PDF 形式**」でファイルを提出してください。PDFでの提出が困難な場合は、事前にプログラム委員会にご相談ください。

7 論文投稿方法

発表資料投稿受付ページ [2] より、ご投稿ください。

8 査読とその結果

投稿された論文概要は、著者の名前や所属をふせて、提案論文と実践報告は 2 名以上の委員が査読します。デモンストレーションで投稿された報告概要は、委員 1 名で査読します。査読後、プログラム委員会から投稿者に宛てて、審査結果と査読コメント、発表時間をお知らせします。採録決定した論文については、必要な修正を加えた後、最終原稿を提出していただきます。

なお、提案論文と実践報告のカテゴリは、査読結果の時点で変更されて採録となることがあります。

9 論文投稿に関する質問

論文投稿に関するご質問は、

表 1: 論文カテゴリー

| カテゴリー | 原稿 (A4判:図表を含む) | 査読者 | 発表時間 |
|------------------|-------------------|------|----------------|
| 提案論文, 実践報告 | 6~8頁 | 2名以上 | 20~30分(質疑を含む.) |
| デモンストレーション, ポスター | 2~6頁 | 1名 | 60分(予定) |

sss2012-prog@ime.cmc.osaka-u.ac.jp
にご連絡ください。

10 関連情報

10.1 提案論文について

1. 本シンポジウムの趣旨に合致し、参加者の興味を喚起するものを採録する方針です。
2. 提出した論文が規定の書式や文量から逸脱している場合には、査読をせず不採録となる場合があります。
3. 教育としての新規性を含めて説明してください。
4. 関連する研究や参考文献にも触れ、できる限り議論を尽して下さい。
5. 「研究の途中結果」「問題提起」「新しいアイデア」など、テーマに対する論点を絞り、簡潔にまとめて下さい。

10.2 実践報告について

1. 本シンポジウムの趣旨に合致し、授業等の参考になるものを採録する方針です。
2. 提出した論文が規定の書式や文量から逸脱している場合には、査読をせず不採録となる場合があります。
3. 小・中・高等学校や大学等の教育機関などでの具体的な教育実践事例について、目的、効果、成功や失敗の原因などを、明確にまとめて下さい。

10.3 デモンストレーションとポスター発表について

1. デモンストレーションとポスター発表を行い、投稿者と参加者との議論を行うものです。
2. 内容がシンポジウムの趣旨に反しない限り、できるだけ広く採録する方針です。
3. デモンストレーション/ポスター・セッションは、ペーパーの発表とは別に時間を設けます。

4. 1つの会場で複数のデモンストレーション/ポスター発表を同時に行ないますので、大きな音を出したり、部屋を暗くしたりしなければならぬようなデモンストレーションはできません。プロジェクタを必要とする場合は個人で持ち込んで頂くこととなりますが、電力の問題がありますので、可能な限りノートパソコンのディスプレイなどで代用して下さい。小型ロボットなどについても同様です。
5. 提案論文、実践報告として投稿し、その内容に関してデモンストレーションを希望する場合は、採録が決定した後に別途その旨をご連絡下さい。但し、会場の都合等により、遠慮していただく場合もあります。

10.4 その他

1. 提案論文・実践報告の論文の中で特に優秀な論文には、「論文賞」を授与します。
2. 優秀な提案論文・実践報告の発表には、「奨励賞」を授与します。
3. 優秀なデモンストレーション/ポスター発表には、「デモンストレーション賞」を授与します。
4. その他、内容が優秀な提案論文または実践報告については、SSS2012の終了後に情報処理学会論文誌への投稿論文として推薦する場合があります。

参考文献

- [1] 情報処理学会：研究報告原稿作成について。
<http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/genko.html>
- [2] SSS2012 発表資料投稿受付ページ。
<http://cho.is.meisei-u.ac.jp/SSS2012POST/>